

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2013・11 vol.446

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉



近代建築界の偉人葛西萬司氏が手掛けた岩手病院診療棟（現1号館）の偉容
（撮影時期：大正15年10月24日（関連記事：P9））

おもな内容

- 特 集 「口腔内科（オーラルメディスン）外来」開設のご案内
口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野 教授 水城 春美
- トピックス 第1回日本災害医療ロジスティクス研修が行われました
- 表彰の栄誉 歯科衛生部歯科衛生士 中島 久美子 さんが日本歯科衛生学会第7回学術大会学術発表奨励賞を受賞しました
- フリーページ すこやかスポット歯学講座No.15 「歯科における静脈内鎮静法について」
口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野 准教授 佐藤 雅仁

特集

「口腔内科(オーラルメディスン)外来」 開設のご案内

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野
教授

水城 春美



1. 口腔内科(オーラルメディスン)とは

口腔内には口内炎やその他の粘膜疾患、良性・悪性腫瘍、口腔乾燥症(ドライマウス)などさまざまな疾患が発症します。今まで口腔外科が抜歯や手術を行う疾患のほかに薬物などで治療する口腔粘膜疾患やドライマウスなども扱ってきました(図)。しかし、近年高齢者人口の増加に伴って粘膜疾患やドライマウスなど口腔内にさまざまなトラブルをかかえた患者さんが増えています。そのため、手術以外の治療法が適応となる口腔疾患を専門に扱う診療科の開設が望まれています。

口腔内科(オーラルメディスン)は、口腔内に生じる疾患の中で手術以外の薬物療法などが適応となる疾患の治療を行う診療科目で、近年口腔内科に対するニーズが増加しています。

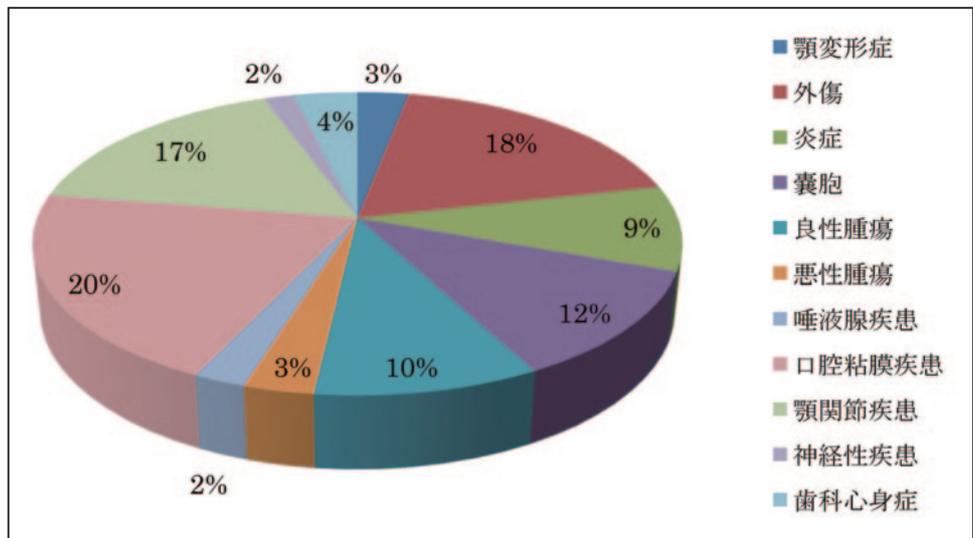


図 平成24年に口腔外科Bを受診した新患の疾患別の割合(抜歯症例は除外)

2. 口腔内科(オーラルメディスン)新設の動き

欧米では口腔外科(オーラルサージェリー)と口腔内科(オーラルメディスン)に分かれている国が少なくありませんが、最近日本でも口腔内科を開設する動きが全国の歯科大学や歯学部でみられています。現在、もっとも早く口腔内科を開設した東京歯科大学をはじめ、北海道大学、北海道医療大学、日本大学、松本歯科大学、鶴見大学、徳島大学に口腔内科の講座あるいは診療科が作られています。また、昨年日本口腔内科学会が発足しました。

歯科医療センターでは、本年1月に「口腔内科(オーラルメディスン)外来」を開設しました。すでに10カ月がたち徐々に患者さんが増えています。医科の先生方や歯科医療センター内でもまだまだ認知度が低いので、今後一層宣伝に努めたいと思っています。



診療風景

3. 口腔内科の対象疾患

口腔内科は、口腔内にできる疾患のうち薬物療法や理学療法などによって治療する疾患を対象としています。主な疾患には次のようなものがあります。

口腔粘膜疾患

ウイルス感染による口内炎や、高齢者に高い頻度で見られる口腔扁平苔癬、白板症などです。口腔扁平苔癬（写真1）は熱いものや辛いものによる痛みを伴う口腔粘膜疾患で、治りにくく再発しやすいことが特徴です。白板症（写真2）は前癌病変の一つで、癌になりやすいため、すでに癌に移行した早期癌（写真3）との鑑別が重要です。白板症や口腔扁平苔癬では、治療後も痛化や再発しやすいことから、長期にわたり経過観察を続けることが大切です。



写真1：口腔扁平苔癬



写真2：白板症



写真3：白板症から癌に移行した早期癌

口腔乾燥症（ドライマウス）

いろいろな原因で起こりますが、多くは薬物（睡眠薬、降圧剤など多数の薬剤）の副作用で起こります。この疾患の患者さんも増加しています。また自己免疫疾患であるシェーグレン症候群が原

因していることもあります。口腔乾燥症では舌粘膜の萎縮（写真4）やカンジダ症などがみられます。



写真4：口腔乾燥症（ドライマウス）にみられる舌粘膜の萎縮性変化

舌痛症や歯科心身症

舌痛症は見たところ明らかな異常は見られないにもかかわらず、舌がヒリヒリと痛む疾患です。歯科心身症は心身症の症状が口腔・顔面などに現れるもので、この疾患の治療は歯科だけで対応するのは難しく、医科の先生との共同診療が必要です。

顎関節症

顎関節の痛みや顎運動の異常、開閉口時の関節の音を主症状とする疾患で、比較的若い人に多く見られます。

口腔顔面痛

口腔や顔面に持続する痛みを訴える疾患で、原因を特定することがきわめて難しいのが特徴です。この疾患も医科の先生との連携が必要です。

神経疾患

三叉神経痛、顔面神経麻痺などで、薬物療法や理学療法で対処できる症例が対象になります。

4. 今後の展望

高齢者人口の増加に伴い、口腔内科的疾患を有する患者さんが増えると思われることから、口腔内科に対するニーズが一層増すものと予想されます。しかし、口腔扁平苔癬や白板症など発症原因が不明なために確実に効く治療法（根治的治療法）がまだ確立されていない口腔疾患が少なくないのが現状で、一刻も早い原因の解明や新しい治療法の開発が求められています。口腔内科の開設とその発展、充実は口腔内科的疾患の研究を促進させ、より質の高い歯科医療をもたらすものと思います。

また、近年口腔ケアの重要性が認識され、医科と歯科が連携してがん治療の支持療法として口腔ケアが行われるようになりました。一方、頭頸部腫瘍の術後や脳血管障害などの後遺症としての摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションが歯科医療において重要な分野になっています。現在、歯科医療センターでは口腔内科、口腔ケア、摂食・嚥下障害リハビリテーションが別々にそれぞれの部署で行われていますが、将来は密接に関連するこれらが統合されて、新しい歯科診療の一分野になることを願っています。

医療専門学校歯科衛生学科の戴帽式が行われました



10月5日(土)、医療専門学校4階講堂(上ノ橋校舎)において平成25年度の歯科衛生学科戴帽式が行われました。戴帽式は、これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新たにすることで、今年度は40名が式に臨みました。

式では、戴帽生の呼名に続き、教務主任から一人ひとりにキャップがのせられ、壇上の戴帽生全員で誓いのことばが唱和されました。厳かな空気が満ちる中、戴帽生を代表して角館星香(かくだて せいか)さんが謝辞を述べ、新たな決意を胸に歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。

WHO(世界保健機関)フェローシップ研修が本学で行われました

10月10日(木)、矢巾キャンパスにおいてWHO(世界保健機関)フェローシップ研修が行われました。WHOフェローシップは、各国における保健人材の育成を目的としてWHOが実施する研修制度で、各国の保健医療従事者が自国以外の保健医療を学びます。今般、中国の保健医療に従事する地方政府行政官6名が本制度を活用し、日本の「自然災害後の保健における対応能力の強化」と「緊急時準備と災害救護」の視察研修を実施することとなり、本学がこれを受け入れました。

研修では、衛生学公衆衛生学講座坂田教授により被災地被害状況の報告や災害後の復興策等について講義が行われたほか、災害時地域医療支援教育センターやいわてこどもケアセンター、ドクターヘリ基地・ヘリポートの施設視察が行われました。



施設視察の様子(災害時地域医療支援教育センター)

第1回日本災害医療ロジスティックス研修が行われました

10月14日(月)から16日(水)までの3日間にわたり、第1回日本災害医療ロジスティックス研修が災害時地域医療支援教育センターをメイン会場に県内各地で行われました。

この研修は、全国各地から約80名が参加した全国初の組織の枠を超えた大規模な実地研修で、災害医療ロジスティックス*能力の修得・向上を目的として実施されたものです。

参加者は、通信断絶時における衛星電話の使用方法や衣食住・移動手段の確保などについて学びを深めたほか、岩手県庁や県内の医療機関、学校、花巻空港等の拠点会場にて、実際の大規模災害を想定した実践的な訓練に参加しました。

※災害時に医療を行うための業務調整全般



意見交換を行う参加者



衛星電話の訓練

岩手医科大学リポジトリの公開を開始しました

本学では、かねてより岩手医科大学リポジトリの構築に向けて準備を進めてきましたが、10月30日(水)より、一般公開を開始いたしました。

岩手医科大学リポジトリは、本学において生産された学術研究成果物を電子的に保存し、インターネット上でその全文を学内外に無償で公開することにより、学術研究の振興および社会貢献に寄与することを目的としたシステムです。是非、教育・研究成果の登録にご協力ください。

アクセス先等は、下記のとおりです。

- ・岩手医科大学リポジトリ URL : <https://iwatemed.repo.nii.ac.jp>
- ・お問い合わせ先 : 附属図書館 mail : repo@j.iwate-med.ac.jp、内丸本館 (内線2303)、矢巾分館 (内線5360) まで



表彰の栄誉

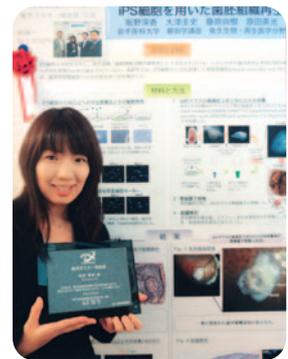
解剖学講座発生生物・再生医学分野 坂野 深香 研究員が 第55回歯科基礎医学会学術大会・総会優秀ポスター発表賞を受賞しました

この度、第55回歯科基礎医学会学術大会・総会 (平成25年 9月20-22日 岡山県岡山市で開催) において、優秀ポスター発表賞 (組織・発生学部門) を受賞いたしました。

受賞したポスターの題名は「iPS細胞を用いた歯胚組織再生」です。iPS細胞は京都大学の山中伸弥先生が開発された、あらゆる細胞になれる万能細胞で、再生医療への応用が期待されています。

我々は、マウスのiPS細胞を神経堤細胞に分化誘導させ、マウスの歯の細胞と組み合わせることにより、3次元的な歯胚 (歯のもととなる組織) を再生することに成功しました。

このことは、iPS細胞を用いた歯の再生の可能性を示す有用な知見であると評価されました。今後も、この研究を更に進め、歯科医療の発展に向け、研鑽していきたいと思っています。受賞にあたり、ご指導いただいた方々に感謝申し上げます。 (文責：坂野 深香)



歯科衛生部歯科衛生士 中島 久美子 さんが 日本歯科衛生学会第7回学術大会学術発表奨励賞を受賞しました



平成24年 9月15・16日に盛岡市で開催された日本歯科衛生学会第7回学術大会において口演発表した「東日本大震災被災住民に対する口腔粘膜疾患からみえた歯科衛生士の役割」が学術発表奨励賞を受賞しました。

贈呈式は平成25年 9月15日に神戸市で開催された日本歯科衛生学会第8回学術大会で行われました。平成23年度から被災者の健康状態の把握を目的として、厚生科学特別研究事業「東日本大震災被災者の健康状態などに関する調査」が行われ、その一環として岩手県大槌町で歯科健康調査が行われております。口腔粘膜疾患の分布状況の把握と高次歯科医療へのアクセス不良な地域へ必要な医療提供を行うためのシステム構築を目的とした口腔粘膜疾患検診が行われ、その結果を顎顔面再建学講座口腔外科分野杉山教授並びに口腔医学講座予防歯科学分野岸准教授のご指導をいただきまとめたものです。私たち歯科衛生士もこの調査に参加し、被災住民の方々とコミュニケーションをとりながら被災地の復興と心身の回復を見つめていきたいと思っています。 (文責：中島 久美子)

新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。

医学部 内科学講座消化器内科消化管分野

松本 主之 (まつもと たかゆき)

昭和35年12月25日
広島県広島市生まれ



①研究テーマ

- ・炎症性腸疾患の病態解明
- ・炎症性腸疾患の発癌
- ・遺伝性消化管ポリポーシス
- ・非ステロイド性消炎鎮痛薬起因性小腸粘膜障害

②主な著書論文

- ・本邦クローン病の疾患関連遺伝子
(Gastroenterology 144:781-788, 2013)
- ・本邦潰瘍性大腸炎の疾患関連遺伝子
(Nat Genet 41:1325-1329, 2009)
- ・潰瘍性大腸炎関連腫瘍の内視鏡診断
(Gastrointest Endosc 68:911-919, 2008)

③趣味・特技

- ・音楽鑑賞

④自己PR

昭和60年に九州大学を卒業し、同大学病態機能内科学(旧第二内科)および川崎医科大学で消化管疾患の臨床研究を続けて参りました。東日本での生活は初めてですが、本学の教員として教育はもちろんのこと、岩手医科大学を東北地方における消化管内科の核とすべく、消化管悪性腫瘍の診断・治療、および炎症性腸疾患(クローン病と潰瘍性大腸炎)の治療を中心として臨床と研究に邁進します。何卒宜しくお願い申し上げます。

⑤経歴

昭和60年 九州大学医学部医学科卒業
九州大学第二内科(現病態機能内科学)入局
川崎医科大学内科学消化器部門Ⅱ講師
平成7年 九州大学第二内科助手
平成10年 九州大学病院消化管内科助手併任講師
平成19年 九州大学病院消化管内科講師
平成21年 九州大学病院消化管内科講師
平成22年 九州大学病院消化管内科診療准教授
平成24年 九州大学大学院病態機能内科学准教授
平成25年9月 現職

医学部 内科学講座消化器内科肝臓分野

滝川 康裕 (たきかわ やすひろ)

昭和31年9月25日
岩手県二戸市生まれ



①研究テーマ

- ・肝不全患者の救命に向けた基礎的・臨床的研究

②主な著書論文

- ・急性肝不全患者の救命に関する前向き研究
(J Hepatol 2009;51:1021-29.)
- ・胆汁酸誘導PI-3キナーゼリン酸化がBidのミトコンドリア移行を阻害することにより肝細胞アポトーシスを抑制する
(Gastroenterology 2001;120:1810-17.)
- ・FGF7は肝再生を担う肝前駆細胞の動員に必須である
(Genes Dev 2013;27:169-181.)

③趣味・特技

- ・蝶の収集

④自己PR

肝不全患者の救命のための診療と同時に、肝炎劇症化の予知・予防法、強力な人工肝補助の開発、肝再生機序の研究をしています。学生や若い医師が、医学に興味を持ち、患者さんや社会のために貢献できる仕事や研究テーマを見つけられるよう、手助けしたいと思います。母校岩手医大のため、教育、研究、診療の全ての面で誠心誠意務めたいと思います。

⑤経歴

昭和57年 岩手医科大学医学部卒業
平成2年 医学博士
平成11年 米国メイヨークリニック消化器病基礎医学研究センターに留学
平成13年 岩手医科大学第一内科講師
平成18年 同助教授
平成22年 同大学内科学講座消化器・肝臓内科分野特任教授
平成25年9月 現職

医学部 内科学講座糖尿病・代謝内科分野

石垣 泰 (いしがき やすし)

昭和42年10月18日
宮城県仙台市生まれ



①研究テーマ

- ・糖尿病の病態解明と治療
- ・原発性高脂血症の診断と予後予測
- ・肥満症の病態解明と治療
- ・代謝異常と血管合併症

②主な著書論文

- ・動脈硬化に及ぼす血中酸化LDLの影響
(Circulation. 118 (1): 75-83, 2008)
- ・小胞体ストレス応答蛋白CHOPの動脈硬化進展への関与
(Circulation. 2011; 124 (7): 830-9.)
- ・酸化ストレスに対するBach1欠損の膵臓β細胞保護効果
(Am J Physiol Endocrinol Metab. 2013 ;305 (5): E641-8.)

③趣味・特技

- ・映画鑑賞

④自己PR

一人の患者さんと長く付き合えることと、全身の各臓器の病態生理が影響しあうことに興味を抱き、糖尿病・代謝領域の診療・研究を行ってきました。こうした面白さと、糖尿病・代謝疾患の治療は健康寿命を延ばすための重要な予防医療であることを若い方々に伝えていきたいと思っています。様々な領域の皆様と関わりがある分野ですので、是非とも協力して仕事を進めていけるよう、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

⑤経歴

平成5年 東北大学医学部 卒業
平成5年 国保総合水沢病院 研修医
平成12年 東北大学大学院医学系研究科 卒業
平成12年 塩竈市立病院 内科医長
平成13年 東北大学病院糖尿病代謝科医員
平成16年 同 助手
平成20年 同 講師
平成22年 東北大学大学院医学系研究科分子代謝病態学分野准教授
平成25年9月 現職

医学部 整形外科講座

土井田 稔 (どいた みのもる)

昭和34年7月9日
大阪府生まれ



①研究テーマ

- ・椎間板変性の病態解析
- ・椎間板の再生医療
- ・頸髄症の病態解析
- ・最小侵襲脊椎手術の開発と実践

②主な著書論文

- ・頸椎部の疾患：頸椎屈曲性脊髄症
(今日の整形外科治療指針、第6版：614-615,2010)
- ・主な疾患の診療の進め方：難治性慢性腰下肢痛の病態と治療、failed back症候群
(整形外科臨床パサージュ：腰痛クリニカルプラクティス：279-288, 2010)
- ・脊椎、I.脊椎脊髄損傷・外傷、II.脊椎脊髄腫瘍。
(ポケット 整形外科ハンドブック：306-325, 2008)

③趣味・特技

- ・スポーツ観戦 (サッカー、アメリカンフットボール)、スキー

④自己PR

平成3年から平成22年まで約19年間にわたり、神戸大学にて教育、研究、臨床に携わってきました。また、平成22年から3年間は一般病院にて年間約150例の脊椎手術を執刀してきました。これらの経験を生かし岩手医科大学整形外科の伝統に関西の風を融合させて、岩手県の整形外科医療を益々発展させていけるように努力していきたいと思っております。今後ともご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

⑤経歴

昭和59年 神戸大学医学部卒業
神戸大学整形外科入局

昭和63年 アメリカテキサス大学リウマチ科留学
平成3年 神戸大学大学院医学研究科卒業
平成3年 神戸大学医学部助手

平成13年 同 講師
平成17年 同 助教授
平成22年 社会医療法人愛仁会高槻病院 副院長
整形外科・脊椎外科センター長
国立大学法人神戸大学医学部 臨床教授

平成23年 現職
平成25年9月

統合基礎講座 生化学講座分子医化学分野

古山 和道 (ふるやま かずみち)

昭和35年6月20日
宮城県生まれ



①研究テーマ

- ・遺伝性鉄芽球性貧血の原因遺伝子の同定
- ・ヘム合成の調節機構の解明

②主な著書論文

- ・脊椎動物における5-アミノレブリン酸合成酵素アイソザイムの組織特異的制御
(Handbook of Porphyrin Science, Vol. 27, p.2-41, 2013)
- ・遺伝性鉄芽球性貧血の臨床のおよび遺伝学的解析
(鉄芽球を伴う不応性貧血との比較) (Ann Hematol. 2013;92(1):1-9.)
- ・赤芽球特異的5-アミノレブリン酸合成酵素のカルボキシル末端は内因性の活性抑制ドメインとして機能する
(Exp Hematol. 2012;40 (6) :477-86)

③趣味・特技

- ・読書とスポーツ観戦

④自己PR

昭和62年に卒業以来、約四半世紀ぶりに岩手医大に戻って参りました。「ヘム合成の調節機構の解明」が主な研究テーマですが、ヘムは全ての細胞で合成される分子ですし、以前は知られていなかった機能も徐々に明らかにされております。臨床経験 (以前は血液内科に所属していました) もある基礎医学者として岩手医大の発展のために尽くして行きたいと考えております。ご指導ご鞭撻の程を宜しくお願ひ申し上げます。

⑤経歴

昭和62年 岩手医科大学医学部卒業
平成元年 東北大学第二内科入局 (血液・免疫研究室)
平成7年 東北大学医学部医化学第二講座助手
平成9～11年 米国ロックフェラー大学に留学
平成17年 東北大学大学院医学系研究科分子生物学分野准教授

平成25年9月 現職

理事会報告

■ 9月定例 (9月24日開催)

1.組織規程等の一部改正について

統合基礎講座に医学教育学講座、医学部に緩和医療学科を設置することに伴い、組織規程及び教育職員の定員に関する規程を一部改正

(施行年月日 平成25年10月1日)

2.教育職員の人事について

統合基礎講座医学教育学講座 教授

佐藤 洋一 (前 統合基礎講座解剖学講座細胞生物学分野 教授)

医学部放射線医学講座 教授

中村 隆二 (前 特任教授)

統合基礎講座病理学講座病態解析学分野 准教授

三上 俊成 (前 特任講師)

(発令年月日 平成25年10月1日付)

薬学部有機合成化学講座 教授

河野 富一 (現 准教授)

薬学部薬剤治療学講座 教授

三部 篤 (現 特任教授)

(発令年月日 平成26年4月1日付)

3.職員の育児休業等に関する規程の一部改正について

職員のニーズに合わせた働き方ができるように、職員の育児休業等に関する規程を一部改正

(施行年月日 平成25年10月1日付)

4.平成26年度事業計画書方針について

5.平成26年度予算編成方針について

表紙写真の解説

● 建築で近代都市を描いた葛西萬司氏と岩手医科大学の建物

表紙写真は、竣工（大正15（1926）年10月24日）当時の岩手病院診療棟（現1号館）です。大正モダニズムを感じさせるセセッション風の建築様式を取り入れた堂々たる姿は、当時の街並みにあって一際大きな存在感を示しています。

この建物は、火災を憂慮していた三田俊次郎先生の強い意向により、鉄筋コンクリート造3階建（約321坪、1,060㎡）で建てられました。その後、幾度かの改修工事等を経ましたが、今なお当時の面影を残す歴史的な建築物として、大学関係者のみならず多くの市民の皆様に親しまれています。

設計者の葛西萬司氏は、岩手医学専門学校附属医院（現2号館）や岩手医学専門学校第1校舎（旧3号館、現在は撤去）等も手掛け、本学の草創期を支える大きな力となりました。他にも中央停車場（現東京駅丸の内駅舎）や盛岡銀行本店（現岩手銀行中ノ橋支店旧館）等、明治から昭和にかけての数々の近代建築物に携わり、建築界にその名を刻んでいます。

現在、葛西氏は盛岡が生んだ偉大な先人の一人として、三田俊次郎先生や三田定則先生等とともに盛岡市先人記念館に顕彰されています。

以下に、葛西氏の略歴をご紹介します。



1号館内部（螺旋階段）



1号館外観

<葛西萬司氏の略歴>

文久3（1863）年7月21日、盛岡生まれ。旧姓鴨澤。明治22（1889）年、葛西重雄の養嗣子となり葛西姓を名乗る。12才の頃に上京し、第一高等中学校（現東京大学教養学部）を経て帝国大学工科大学造家学科（現東京大学工学部建築学科）に進学し、師である辰野金吾氏に近代建築を学ぶ。

卒業後は、日本銀行の技師を務め、明治36（1903）年には辰野氏とともに「辰野葛西事務所」を設立。同事務所は当時の建築界を牽引する存在として、相撲常設館（両国国技館）や中央停車場（東京駅丸の内駅舎）など近代日本を象徴する先進的な建築物を多く手掛けた。また、自身も日本建築学会の副会長を務める等、業界の発展に寄与した。

昭和17（1942）年8月19日、東京の自宅にて没（80才）。

本年で生誕150年を迎える。

<写真、資料提供：財団法人盛岡市文化振興事業団 盛岡市先人記念館>

ラジオ番組・テレビ番組放送中

ラジオ
番組

「岩手医大 ～いのちから～」

- ・放送局 エフエム岩手
- ・放送日時 毎週土曜日 12:00～12:15

テレビ
番組

「健康大百科」

- ・放送局 テレビいわて
- ・放送日時 毎月最終土曜日（予定）
10:00～10:30

誌面の訂正と お詫び

大学報vol.445の掲載内容に誤りがありましたので、次のとおり訂正の上、お詫び致します。

訂正箇所：9ページ 改編後の附属病院医科診療科名称

(正) 消化管内科 (誤) 消化器内科

第115回大学報編集委員会

日 時：平成25年11月21日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、松政 正俊、齋野 朝幸、佐藤 仁、

昆 由美子、佐々木 忠司、藤村 尚子、武藤 千恵子、野里 三津子

歯科における静脈内鎮静法について

● 静脈内鎮静法とは

皆様の持っている一般的な歯科治療のイメージはどのようなものでしょう。一痛いのではないかと、あの器械の音がイヤだ、なんとなく苦手だ、緊張する—そんなマイナスのイメージが残念ながら多いのではないのでしょうか。歯科治療を受けることは多少なりともストレスを伴うのでそれは当然ともいえるのです。そういったストレスを軽減し、不安や恐れ、イヤな気持ちをなくして、楽に・快適に・円滑に・安全に歯科治療を受ける方法があります。そのひとつが「静脈内鎮静法」です。

● 静脈内鎮静法の具体的な実施方法

安全確保のためにモニター（血圧計、心電計、酸素飽和度など）を装着し、処置中継続して観察・管理します。酸素の吸入も行います。そして静脈路の確保（点滴をとる）を行い、点滴回路から、鎮静作用・抗不安作用・催眠作用などを有する薬剤を投与します。それにより、気分が楽でうとうとした状態からほぼ眠っている



図 コンピューター制御のシリンジポンプ

状態まで、患者さんや処置内容に合わせて意識の状態を調節します。コンピューター制御により、薬物の目標血中濃度を維持するように自動的に行う器械を用いることが多くなっています（図）。

● 静脈内鎮静法の適応

以前に歯科治療でイヤな体験や怖い思いをして、歯科治療に対して強い嫌悪感や恐怖心を持っている方などはこの方法のとても良い適応です。苦痛なく歯科治療を受けることができます。また、心臓病や高血圧などの全身疾患があり、歯科治療によるストレスをなるべく避けたい方にも静脈内鎮静法は良い方法です。歯科治療中に緊張などにより思いのほか血圧が上昇している方は実は結構多いのです。そういった方の脈や血圧を調節し、安全に快適に治療を行うことができます。その他、嘔吐反射が強く、歯科治療中に何度も「オエッ」という反射が起きてしまう方にもよく用いられます。以上のような方以外にも、全身麻酔をするほどではないがそれなりに手術・処置が大きい場合（難しい親知らずの抜歯、歯科インプラント埋入手術など）でも実施され患者さんの安全・快適性に貢献しています。

白鳥の声が聞こえ空を見上げると、きれいなV字で南に向かって飛んで行きました。渡り鳥といえば冬に飛来するイメージがありますが、今春矢巾キャンパスの池にも渡り鳥のつがいが出てきて、子育てをしておりました。寒くなり南に向かって旅立ったのでしょうか、6羽の雛たちもめっきり見かけなくなりました。来春、成長した雛たちが、故郷である矢巾キャンパスに戻ってくることを楽しみにしています。

（編集委員 下山 佑）

岩手医科大学報 第446号

発行年月日 平成25年11月29日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19 - 1

TEL 019-651-5111 (内線7023)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-9

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp